

家庭用消費剤（洗剤）の環境・安全に関する取組み

日本石鹼洗剤工業会

○環境・安全に関する基本理念

製品の製造、流通、消費、廃棄のすべての段階で環境および人の健康に配慮した製品作りを行う。

○環境および人体安全性に関するこれまでの取組み

1）環境問題に関する取組み（水環境問題を中心にして）

- ・ 合成洗剤の生分解性改良（ハードABS→LASへの転換、～1972年）
- ・ 富栄養化への対応（無リン洗剤への転換、1980～1984年）
- ・ 環境への負荷量低減への取組み（洗剤のコンパクト化、詰め替え容器）

界面活性剤量：20～50％低減、容器：45％低減（2000年実績）

- ・ 主要河川での環境モニタリング調査（LAS，AE，カチオン活性剤、NPE）
- ・ 主要界面活性剤のPRTTRリスク評価報告書の作成、発行

2）人体安全性に関する取組み

- ・ 洗剤有害説、催奇形性説：催奇形性説否定。安全性に問題なしの結論
（1983年、厚生省：当時）
- ・ 食器用洗剤の手荒れ低減：マイルド成分AOの開発（LAS→AES系）

3）消費者とのコミュニケーション

- ・ 製品の苦情、相談に対する真摯な対応と製品改善へのフィードバック
- ・ 安全性に関するQ＆A集の発行、ホームページの開設

○今後の課題と取組み

- 製品の安全性点検作業（リスクアセスメント）の継続、拡大
 - ・ PRTTR法施行への対応（リスク評価の継続）
 - ・ 欧州HERA／洗剤成分のリスクアセスメントへの参加
 - ・ HPVイニシアティブへの取組み